

平成 23 年度 地域密着型金融に係る当金庫の取組み

1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の支援強化

取組項目	取組方針
(1) 創業・新事業支援	・過疎化・高齢化が進む能登地区では、伝統工芸・特産地型産業が主の小規模事業所が多く、新技術・新規事業の取組みは極めて少ないが、産学官等外部機関との連携により地域における情報収集・提供機能を拡大し、支援の介在強化を図って行く。
(2) 経営改善支援	・当金庫経営支援の基本である「再生」のみを目的とした拙速な結果を求めず、地域と共に生きるための「維持」を旨とした、地域・お客さまに軸足を置いた長期支援の継続」を使命に、地域金融の要としての役割を果たして行く。
(3) 事業再生	・地域柄、企業規模を鑑みると多様な事業再生手法の活用は薄いと思われるが、取組み機会発生に備え、職員全体の再生ノウハウのレベルアップを図って行く。
(4) 事業承継	・地域経済の先行き不透明感、急速に進む超高齢化と過疎化から後継者不足が深刻な問題となり、事業継続に見切りをつける事業者が多いことから、支援の介在強化を図って行く。
(5) 金融円滑化対応	・必要な資金を安定的に供給し、地域経済の発展に寄与するため、地域金融の円滑化に全力を傾注して取り組んで行くとともに、資金需要や貸付条件の変更等の申込みがあった場合には、これまでと同様、各々が抱えている問題を十分に把握したうえで、その解決に向けて真摯に取り組んで行く。

2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底

取組項目	取組方針
(1) 担保・個人保証に過度に依存しない融資等への取組み	・顧客ニーズに副った既存商品の見直し・拡充により事業価値に相当した商品の提供を図り、取引先との密度の高いコミュニケーションの確保により得られた情報に基づく融資を徹底する。
(2) 企業の将来性、技術力を的確に評価できる能力等、人材育成への取組み	・企業・事業価値を的確に評価できる職員能力向上の為、研修への参加、資格取得等により、目利き力ある人材を育成し、情報の非対称性を埋めて行く。

3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

取組項目	取組方針
(1) 地域全体の活性化、持続的な成長を視野に入れた、同時的な「面」的再生への取組み	・取引先企業への支援等、資金供給者としての「点」の再生にのみ止まらず、地域情報を活かした一体的な「面」的再生に結び付けて行く為、産学官との連携、地域への積極関与により繋がりを強化して行く。
(2) 地域活性化につながる多様なサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・顧客ニーズを反映した商品開発・サービスの拡大を地域の活性化に繋げ、外部機関との連携、異業種交流による外部資源の活用等により、持続可能な地域経済への貢献に資する。 ・地域を担う若い世代への金融知識の普及のため、昭和23年から継続している「こども信用金庫」により金融経済教育を実践して行く。